

ニュースレターくもと News Letter Kumamoto

夏
Summer
2013
vol. 98

■ Publisher : Kumamoto International Foundation
KCIC 4-18 Hanabata-cho, Chuo-ku, Kumamoto City, 860-0806
Tel : 096-359-2121 e-mail : pj-info@kumamoto-if.or.jp
URL : http://www.kumamoto-if.or.jp/

■ 発行 : 一般財団法人 熊本市国際交流振興事業団
〒860-0806 熊本市中央区花畑町4-18 熊本市国際交流会館
Tel : 096-359-2121
e-mail : pj-info@kumamoto-if.or.jp
URL : http://www.kumamoto-if.or.jp/



CONTENTS



KIFが「地域国際化協会」へ認定! 1P
ラオスレポート/イベント紹介 ... 2P~4P
ちょっといわせてはいよ 5P

世界を知る 6P
未来のために 7P
ちょっと日本語/きふプロ 8P

KIFが総務省の「地域国際化協会」へ認定されました!

平成24年4月に熊本市が政令指定都市となったことで、総務省が定める「地域国際化協会」を置くことが可能となりました。これに対応し、当熊本市国際交流振興事業団は、平成25年4月15日付けで総務省により「地域国際化協会」に認定されました。6月に、総務省から熊本市に当該認定書が届き、6月26日(水)に熊本市役所本庁にて、牧副市長より吉丸理事長に認定書が手渡されました。



牧副市長(左)と吉丸理事長(右)、
熊本市役所本庁にて

認定書の贈呈式では、牧副市長より、「熊本は交通の拠点から近いところに、スイスのような山脈—阿蘇のカルデラ、地中海を彷彿させる天草の海岸線という山海の大自然が体験できる素晴らしい環境を持ち、海外から大変注目されています。当地を世界へ広く発信していきたい」「国際化は、今、地方—熊本の時代です」とお言葉をいただきました。吉丸理事長は、「熊本には伝統的な文化があり、素晴らしいと自然環境と歴史、文化を、うまく融合させて、国際交流を進めていきたい。」とお話されました。

この地域国際化協会への認定を機に、当事業団では、熊本市当局と民間・市民の方々一人ひとりをつなげる中間的支援組織として、より一層、国際化をとおして地域の活性化と発展に寄与していく所存です。

熊本市の国際化指針の理念を実現するための事業を実施する機関として、また、熊本市の国際戦略・国際業務のサポート役として、市全域を俯瞰的に捉え、区毎の状況に合わせた国際交流、多文化共生事業を実施していきますので、引き続き、皆様のご支援とご協力をよろしくお願いたします。

【地域国際化協会とは?】

(自治体国際化協会のホームページより)

各地方公共団体では、地域レベルの国際化を推進するため、さまざまな取り組みを行っています。しかし地域の国際化は行政のみでなし得るものではなく、民間国際交流組織の活動が不可欠です。

総務省では、このような認識のもとに、総務省の指針に基づき、県等が作成した「地域国際交流推進大綱」に位置づけられ、地域の国際交流を推進するにふさわしい中核的民間国際交流組織を「地域国際化協会」として認定し、各種の支援措置を行っています。

■ 熊本市の国際化指針(=「地域国際交流推進大綱」)

(平成22年3月発行)

基本理念「世界に開かれた活力ある都市の実現」

■ 2つの方針

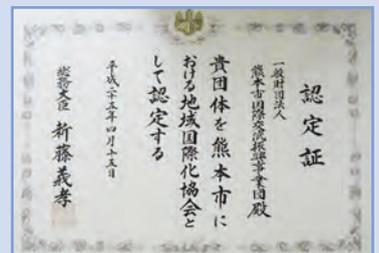
◎ 方針1

市民主体の多彩な国際活動を通じ活気あふれるまちをつくる

◎ 方針2

外国人にも暮らしやすい多文化共生のまちをつくる

当事業団は、この熊本市の国際化指針の基本理念を実現するために、熊本市、また市民、民間団体、関係機関、民間事業者の方々との協力、連携をはかりながら、「熊本らしい」「熊本ならではの」「熊本でしかできない」国際交流・国際協力・多文化共生事業の実施をとおして、熊本の活性化と発展に寄与していきます。



地域国際化協会 認定証

平成24年度 JICAパートナーシップセミナー



報告者：一般財団法人熊本市国際交流振興事業団 多文化共生・人づくり推進チーム 徳淵健一

私ども事業団では、平成15年よりラオスプロジェクト事業として、ラオスへのスタディーツアーやラオス製品の取り扱いなどを通して同国を支援しています。そのような中、今年2月、JICA（独立行政法人国際協力機構）が実施するJICAパートナーシップセミナー（以下、セミナー）に参加する機会を得て、ラオスを訪問しました。本セミナーには、ラオスと何らかの事業を展開、または今後ラオスへ進出を考えている企業やNGO、大学、国際交流協会、自治体など様々な分野で活動する20名が集まり（以下、参加者）、ラオスでの現地視察を通じ、JICAの取り組みへの理解促進、また、参加者たちにJICAと今後どのような連携が図れるかなどを考えて、情報交換や提言をってもらうために企画されたものです。

今回訪問したラオスのJICA現地（サイト）は、10か所ほどあり、ご報告したい項目が多岐にわたるため、紙面の関係上、本号と次号（99号秋号）に分けて掲載させていただきますとともに、なるべく読みやすくしたいとの思いと、私自身初めてのラオスを訪問したという個人の主観や感想も交え、多少くだけた表現を用いさせていただきますことを予めご了承願います。

- ◆ 期 間：平成25年2月10日（日）～17日（日）全8日間
- ◆ 訪問国：ラオス人民民主共和国（同国内にあるJICA関係サイト）
- ◆ 団 員：23名（参加者20名、JICA関係者3名）
- ◆ 主な行程と訪問先（サイト）



日 程		内 容	滞 在 都 市
2/10	終 日	ラオスへの移動（バンコク経由）	福岡～ビエンチャン
2/11	午 前	①JICAラオス事務所 ②IV-JAPAN2号店	ビエンチャン市内
	午 後	③ラオス・日本人材開発センター	
2/12	午 前	④バンビエン県	ビエンチャン北部
	午 後	⑤ナムグム・ダム水力発電事業	
2/13	午 前	パクセーへ移動（ラオス南部の都市）	パクセー
	午 後	⑥地雷分野に関するラオス・カンボジア南南協力	
2/14	午 前	⑦南部山岳丘陵地域生計向上プロジェクト	サワラン県タオイ郡
	午 後	⑧中核農家視察	
2/15	午 前	⑨青年海外協力隊 小学校教諭	パクセー ホワイフン・タイ村 バクソンなど (ビエンチャンへ移動)
	午 後	⑩一村一品プロジェクト	
2/16	終 日	帰国～バンコク経由～機内泊等	
2/17	早 朝	福岡空港帰着	福岡

? ラオスとは

初めにラオスといっても日本とは余り馴染みがないように思いますので簡単にラオスの概要を述べさせていただきます。

ラオスは人口約630万人、49の少数民族からなる多民族国家で、そのうち約6割を低地ラオ族が占めています。国土面積は約24万平方キロ（本州程度）、ベトナム、タイ、カンボジア、ミャンマー、中国の5カ国に囲まれている内陸国です。気候はおおむね雨季と乾季、宗教は主に仏教、精霊崇拝など。通貨はkip（キープ、10,000kip≒100円※訪問時レート）、時差はマイナス2時間（日本が

正午であれば午前10時）、政治体制は社会主義国家、日本との関係は1955年に国交を樹立、更に1965年、日本が初めて青年海外協力隊を送り出した国でもありません。その他、日系企業が70社ほど進出しています。政府開発援助（ODA）の方向性としても、①経済・社会インフラ整備、②農業の発展と森林の保全、③教育環境の整備と人材育成、④保健医療サービスの改善の4項目が基本方針として掲げられています。（JICA資料参考）

では、ここからは今回訪問したサイトを日を追ってご報告させていただきます。

2月10日(初日)

ラオス・ビエンチャンへの移動(バンコク経由)

今回の全国から集まった訪問団員20名は、NGO、企業関係者、国際交流職員、自治体職員と、引率するJICAスタッフ3名で、幅広い業種の方々です。それぞれ最寄りの空港から経由地バンコク・スワンナプーム国際空港で合流し、ラオスの首都ビエンチャンにあるワットイ国際空港へ、現地時間午後9時に到着しました。この空港も日本のODAで建てられているそうです。



▶ワットイ国際空港の記念碑

2月11日(2日目)

ビエンチャン市内のJICA施設見学など

この日からが実質的に視察開始日となり、ビエンチャン市内にあるJICA事務所への訪問を皮切りに、周辺地域にあるJICA関連サイトを訪問しました。

①JICAラオス事務所

所長以下、所員数名で対応してくださいました。この事務所ではラオスと日本の関係が説明されました。また今後、我々が訪問するサイトの全般的な事業概要の説明が、DVD等でなされました。

②IV-JAPAN(NGO) 職業訓練トレーナーの養成事業

現地ラオス人の職業訓練トレーナーの養成プログラムを実施する施設。比較的自立しやすい職業(理美容、調理、縫製)のトレーナーを養成し、自立できる多くの人材が育っていくことで貧困撲滅を目指していました。同サイトでも、理美容設備(1台)、食堂(客席数80程)、縫製品の小売などを行い、私ども訪問団の昼食も訓練中の生徒が作ったお弁当をいただけることになり、メニューも日本でおなじみのから揚げ弁当や、魚フライ弁当など4品目から選ぶことができました。中には髪を洗ってもらう参加者もいて、その訓練の成果を体験することができました。



▶生徒によるお弁当のメニュー

**③ラオス・日本人材開発センター
(通称:ラオス日本センター)**

当サイトは、ラオス国立大学ドンドックキャンパス内に設けられ、日本(JICA)とラオス(同大学)が共同運営を行い、経済ビジネス分野の人材育成を柱に、日本人スタッフ6名が駐在していました。(専門家2名、JICA2名、日本財団2名)。ここでは専門家による経済講義が行われ、ラオスが昨年8パーセントという高い経済成長を遂げていること、2015年に迫ったASEAN統合までの間に日本企業の投資、進出が促進されていると説明がありました。隣国のタイや、ベトナム、中国、また韓国などは投資展開が早く、在ラオス日本人が600名に対し、韓国人は2,500名との実態を紹介。一方、団員からの質疑応答では、ラオスの人柄や、対日感情、住宅、交通事業等に質問が及びました。また、施設内には、日本語教材や、日本文化紹介のための部屋とスタッフも用意されていました。ちなみに住宅事情について後で知りましたが、ラオスの街中の個人の住宅は主にレンガを組み立てたものが多く、お金があるときに出来るだけたくさんのレンガを買いそれを自分で組み立て、またお金をためてレンガを買い組み立てていくのが一般的だそうです。そのようなわけで、市街地には一瞬、廃墟を思わせる建造物を多く見かけましたが、それは廃墟ではなく建築中のものだったと分かりました。



▶日本センター前にて記念撮影

2月12日(3日目)

バンビエン県見学

視察3日目。ビエンチャン県北部バンビエン郡のサイトを訪問。

④香川県うちわ産業振興支援プログラム
〔草の根技術協力〕

香川県では、丸亀うちわが日本のうちわの9割のシェアを持つという強みを活かし、同県が県内の関連団体と実行委員会FUNFANを組織し、2012年8月よりバンビエン郡内の村の振興事業として、専門プロジェクト調整員(協力隊OB)を配置し、うちわ製作の技術指導を行っていました。まだ事業がスタートして半年ほどしか経過していないため、うちわの販路を確立するまでには至っていませんでしたが、地方自治体が行う国際協力の形としては、非常に魅力を感じました。

調整員の話によると、まず村人の理解を得る所から始めなければならず、そのためには同地区の村長の許可を得る必要があり、そのためにはface to faceの関係が不可欠だとか。その際、お酒を一緒に飲みかわすのがラオス流であり、そのお酒がラオラーオというアルコール度数が45%であるため、お酒が苦手な人はとても苦勞するだろうということでした。



⑤「ナムグム・ダム水力発電事業」

総貯水量
70.3億m³と
いう膨大な
貯水量を誇る
同ダム1
号は、1967
年より、無償
資金協力



で、メコン川支流のナムグム川にダムを建設され、その水力発電事業はラオスにとっても一大事業となっています。ダムで出来た広大な湖畔のため、漁業(淡水魚)も盛んであり、付近の村々では魚の干物を販売している様子が数多く見受けられました。ラオスではこの電力をタイなどに輸出し外貨を稼ぎ、特に雨季は電力が多く供給できているようでしたが、乾季は逆にタイから輸入しないといけな事情があるようでした。また、このダム湖畔沿いはリゾート開発も行われており、外国人観光客の誘致にも一役買っていました。ちなみにこの日の昼食はその一角で取ることなり、湖畔を眺めながらの食事はとても良いものでした。



次号につづく >>>

イベント情報

■【第21回「アフリカ子どもの日」 in Kumamoto】

アフリカ諸国から日本に留学している若者を迎え、様々な問題や文化について、熊本の若者たちと共に考え、共に学び、よりよい地球市民を目指したいと考え、企画しています。設立当初よりはじめ、今年で21回目を迎えます。

- ◇日時:2013年7月5日・6日・7日
- ◇参加費:無料(ただし夜の交流会費:学生1,000円、一般6,000円)
- ◇場所:くまもと県民交流館パレアほか
- ◇問い合わせ先:熊本県ユニセフ協会 TEL.096-326-2154
- ◇対象:小・中・高校生・大学生・一般

■【第15期 市民講座「アイルランド:心の旅」】

熊本近代文学館館長 井上智重氏に「～古代の風 ケルトの風～」講演をしていただきます。

- ◇日時:2013年7月20日(土)13:30～15:00(90分)
- ◇参加費:無料
- ◇場所:熊本近代文学館
- ◇問合せ先:熊本アイルランド協会事務局 TEL.096-366-5151
- ◇対象:参加希望の方は当日、自由においでください。
- ◇備考:熊本アイルランド協会HP ⇨ <http://www.kumamoto-ireland.org>

■【第15期 市民講座「アイルランド:心の旅」】

熊本学園大学非常勤講師 伊東裕起氏に「～イエイツとアイルランド文芸復興～」講演をしていただきます。

- ◇日時:2013年8月24日(土)14:00～15:30(90分)
- ◇参加費:お茶とコーヒーが付きますので200円いただきます。
- ◇場所:(株)お菓子の香梅 帯山店ドゥ・アート・スペース
- ◇問合せ先:熊本アイルランド協会事務局 TEL.096-366-5151
- ◇対象:参加希望の方は当日、自由においでください。
- ◇備考:熊本アイルランド協会HP ⇨ <http://www.kumamoto-ireland.org>

ちょっと いわせてはいよ

你好!ニ-ハオ!

熊本市 中国国際交流員(CIR)
楊 淳麗(ヨウ ジュンレイ)

熊本の皆様、はじめまして。中国広西チワン族自治区の南寧市から参りました、楊淳麗と申します。南寧市は中国の南に位置し、チワン族という少数民族の原住地です。勿論、私もチワン族です。高校時代から日本のドラマや番組に興味を持ちはじめ、大学に入ると日本語を専攻して四年間勉強しました。大学二年生の時に、関西地方へ旅行に行ったことがあります。和風な古都奈良、伝統美の京都、賑やかで活気のある大阪、中華風情が溢れている神戸…それぞれ独自の文化と魅力を持っている町々、美しい景色と温かい人情が、今でも忘れられません。



2007年、金閣寺の前で

特に強く印象に残ったことの一つは、日本人の強い環境保護意識です。日本の街や道路はほとんどゴミ箱がないのに綺麗で清潔です。ゴミを家まで持ち帰っている人が多いと聞きました。中国では、数メートルおきにゴミ箱が設置されて、清掃員がよく掃除をしていることが多いので、初めて日本に来た時なかなか慣れることが出来ませんでした。「自分たちの街は自分たちで守る」という意識に感心しました。

二つ目は、日本人の他人に対する思いやりと優しさです。公共の場で大声で喋らないように思いやりを持って行動したり、なるべく迷惑をかけないように自制したりすること、素晴らしいと思います。また、私が大阪で買い物をしてホテルへ帰る時、迷子になったのですが、途中でお婆さんに道を尋ねると、すごく親切で、ホテルまで案内してくれました。親切に手伝いしてくれる姿が、私の心に強く



食べるのが大好き!

4月より、熊本市役所に、中国国際交流員として勤務する楊淳麗さんより、熊本の皆様へのメッセージをいただきます。

残りました。この旅を通じて、真の日本の姿を垣間見ることができました。小さな国土の日本がいかにして奇跡を起こしてきたのか、少しだけ理解できたような気がします。

大学卒業後、広西チワン族自治区北海市の外交事務を主管する機関で働き、国際交流の仕事をしていました。仕事で日本と関わるのがよくありますが、その中で特に興味深いのは、毎年開催されるアセアン博覧会の仕事です。熊本県は広西チワン族自治区の友好姉妹都市なので毎年出展し、熊本のことを広西の人々にPRします。その時、私もハッピーを着て、日本人スタッフと一緒に熊本のお酒や食べ物などの試飲・試食を提供したり、伝統的な工芸品を展示したりしていました。皆さんの話を通訳しながら、お互いに好奇心と友好の気持ちを強く感じていました。



アセアン博覧会で
熊本のハッピーを着た私!

今、中日関係は波風が立っていますが、世界中の人々が紡いだ「絆」、「愛」、「優しさ」、「敬意」などは、どんなことにも負けないはずだと思います。両国民はとても友好的だと深く信じています。ですから、日本の社会、文化についてもっと知りたい、中日友好交流の架け橋になりたいです。日本への旅行経験はありましたが、真の日本社会に身を投じて生活する経験はなかったので、交流員として、もう一度日本に行きたいという気持ちで、やっと熊本に来ました。ここで、さまざまな体験をして成長し、自分の



先月、藤の花見に行きました。

可能性を広げたいと思います。また、中国と日本の異なる文化や考え方をできるだけたくさん理解して、帰国後、自分が感じた真の日本を中国の人々に伝え、中日友好交流のために、力になるように努力して行きたいと思います。熊本市の皆様、どうぞ宜しくお願い致します。



世界を知る It knows the world.

このページは世界を知るをテーマに「国際協力」については、独立行政法人国際協力機構(JICA)デスク熊本や、国際交流、協力分野で活躍している皆様のご協力を得て、日本で生活する私たちには日常知ることができない興味深い世界の状況を紹介します。

サモアの学校で—先生達の子育て

さとう ようすけ
 青年海外協力隊 平成22年度4次隊 **佐藤 庸介**さん
 (サモア派遣、職種:PCインストラクター)

マーロー!(サモア語でこんにちは)

私は2011年3月から2年間、青年海外協力隊のPCインストラクターとして南太平洋の島国サモア独立国で活動してきました。今回は、私がサモアで見た「学校での子育て」について話をさせていただきます。



PC教師向けのワークショップ

私が勤務していたのは、首都アピアから車で15分ぐらい離れたファレウラという村にあるメソジスト教育委員会が運営しているウェスリーカレッジです。日本でいう中学から高校に当たる生徒達が通っています。生徒数は約800名、教師数は約50名と、かなり大きい学校です。

赴任してすぐに気がついたサモアと日本との違いは、先生達が自分の子供を学校に連れてくることです。毎朝の職員会議の時には、数人の先生が、赤ん坊から3歳ぐらいの子を連れて来ています。その先生達は、授業中板書をする時など自分の子どもに構ってられませんので生徒に預けます(時には携帯電話をする折も!)。預かった生徒は、抱き上げてあやしたり、授業中にもかかわらず教室の外に出て子どもの面倒を見たりします。また、近くにいる上級生に任せることもあります。上級生は選択科目により授業を受けなくて良いコマがあり、暇にしていることがあります。しかし実は、年度末に実施される国家試験の受験生なのですが…。

このように生徒が子守りをする事で、授業をまともに受けられない生徒がでることや、上級生の学習時間を減らすことになるため、最初は生徒の勉強の邪魔だと思って、私はイライラして見ていました。しかし、世話をする生徒は迷惑に思うどころか喜んで子どもの相手をしています。一組の夫婦に子どもが5~6人いて当たり前、そして夫婦一組だけではなく、その兄弟を含めた親族も一緒に住む大家族が当たりのサモアです。大抵の生徒が小さい弟や妹、甥や姪やいとこが家にいるので、子どもの相手は慣れたものです。抱きかかえる誰もがキスをし、優しく接しています。

そして預けられる子供も、普段から沢山の家族に抱かれたりしているので、全く人見知りをしません。誰に抱かれても嫌がること無くニコニコしています。時には、ウロウロ勝手に歩きまわって、見ていてあげなければ何をするか分からないところもあります。そんな子どもたちをみているうちに、私の「イライラ」はいつの間にか「可愛いなあ」に変わってきました。このような状況は、仕事のあり方として良くないとは思いますが、しかし、何事も「アフレポレ(サモア語で「心配するな」)」の精神のあるサモアです。父、母にこの話をしたところ、50年ほど前の日本と似ていると言っていました。少子化・核家族化が進み、子どもを育てにくい環境にある現代日本からみると、とても羨ましく感じませんか?



学校の先生方と子供達

未来のために

ここでは、私たちの未来を考える上でとても重要な視点である共に生きる社会、多文化共生について専門家である羽賀友信さんにシリーズでご寄稿いただいています。今回は地域国際化協会認定についてご寄稿いただきました。

地域国際化協会認定を受けて

熊本市国際交流振興事業団が地域国際化協会の認定を受けました。地域国際化協会は、各地方公共団体で地域レベルの国際化を推進する取り組みを行っていますが、行政のみでできるものではなく、民間国際交流組織による活動が不可欠です。総務省の指針に基づき県が作成した「地域国際交流推進大綱」に位置づけられる、中核となる民間国際交流組織を地域国際化協会として認定し、各種の支援措置を実施しています。

地域の国際化と一口に表現しても、内容は多岐にわたり複雑です。大きく分けても、国際化に向けた地域の啓発事業、日本語教育、生活相談対応等の多文化共生事業、世界が相互依存関係になっている中での国際協力事業、被災時対応の防災支援事業があります。

特に熊本市は、フェアトレード都市宣言をし、日本1国の豊かさだけを考えるのではなく、世界が共生できるフェアな関係を推進する中心都市でもあります。7月12日にはアメリカテキサス州サンアントニオで開催される環太平洋サミット2013年会議(リーディングアジア:日米関係を再生させる姉妹都市ネットワーク)において幸山政史市長が基調講演を行います。この会議で問題提起をし、イニシアチブをとる重要な役割を熊本市が担います。また来年度には、世界フェアトレード都市会議が熊本で催されます。こういったことから、事業団の役割が非常に重要になってきます。

70年代に比べると、自然災害の数が約3倍に増加しています。世界の気候変動が日本の地方にも、大きな影響を与えており、防災も非常に重要なテーマになっています。定住化が促進され長期滞在の外国籍市民が増加しており、生活再建までの復興が課題になっています。ここでは全国的な連携システムが必要とされ、事業団が長年構築してきたネットワークがますます重要性を増してきています。

またインターネット環境の推進とともに、グローバル人材の育成と活用が重要性を増しています。事業団が社会教育の一環として進めてきた、交流を通じた青少年の国際理解教育が、多様性を活かし地域の活性化に繋がる原動力となり、国際都市熊本をますます元気にする事になると思います。これからは異なる視点を学びに変えることにより、問題解決にあたる「協働」というシステムが、地域における国際化のキーワードになってくると思います。



筆者:羽賀 友信さん
長岡市国際交流センター「地球広場」センター長
新潟NGOネットワーク顧問
JICA地球ひろば 国際協力サポーター
長岡市教育委員、JICA専門家
※当事業団多文化共生アドバイザー

あなたの企業も一緒に情報発信しませんか!?

この「ニュースレターくまもと」は、当事業団の機関紙として平成7年11月の創刊以来、熊本の国際交流・協力に関する情報を、日本各地の国際交流協会、国際交流・協力機関や市民、在住外国人の方々を中心に幅広く発信し、国際交流・協元に感心を持つ人、開発教育関係の教育者、留学を考えている人、異文化理解に興味を持つ人など、多くの方々にご愛読いただいています。

*webでも公開しています。(<http://www.kumamoto-if.or.jp/>)

発行:年4回(4月、7月、10月、1月) 部数: 3,000部

配布先:市内の小・中学校、高校、大学、全国の国際交流協会、市内の国際交流・協力団体、当事業団のボランティア登録者及び賛助会員(約500名)、熊本市役所関係機関(区役所、市民センター、公民館等)、熊本市国際交流会館内

広告の種類:1/4ページ(この広告募集のサイズです)

契約期間及び料金:1/8のおためしサイズ(1回) 5,000円単発(1回) 20,000円、半年契約(2回) 30,000円
年間契約(4回) 40,000円

★まずは、1/8のおためしサイズ(1回5,000円)で貴社の情報を発信しませんか!

